

明日香村の現況について

文化財

1. 遺跡の分布状況

- ・ 明日香村には、村全域にわたり、古墳時代後期から飛鳥時代の古墳が多数分布している。
- ・ 特に、6世紀の終わりから平城京に都を移すまでの約100年間、多くの都がこの地域に営まれ、政治・文化の中心地として栄えていたとされている。

表 1 遺跡の状況

	古墳	寺院跡	宮殿跡	庭園跡	瓦窯跡	城跡	集落跡	遺跡散 分地	その他	合計
箇所数 (箇所)	345	17	9	10	9	15	8	38	14	465
面積 (ha)	10	63	53	4	2	43	11	110	32	327

奈良県遺跡地図 奈良県教育委員会 平成10年3月より。

史跡、陵墓(参考地)を含む。面積は図上計測。

資料：明日香村総合管理計画策定調査報告書(平成17年3月、明日香村教育委員会)

2. 文化財指定状況

- ・ 国指定史跡が20件、うち3件が特別史跡。国指定史跡の面積は合計約49.4haとなり、これは村面積の2.1%に相当。

表 2 特別史跡一覧

種別	名称	所在地	面積 (㎡)	指定年月日	所有者	管理団体	管理委託等
特別史跡	石舞台古墳	島庄 祝戸	12,317	(史)昭 10.12.24 (特史)昭 27.3.29	国 奈良県 明日香村	奈良県	(財)明日香村観光開発公社
特別史跡	高松塚古墳	平田	913	(史)昭 47.6.17 (特史)昭 48.4.23	国	明日香村	(財)明日香村観光開発公社
特別史跡	キトラ古墳	阿部山	4,301	(史)平 12.7.31 (特史)平 12.11.24	明日香村 民有地	明日香村	

3. 近年の発掘調査状況

島庄遺跡（大型建物群）

- ・ 蘇我馬子の邸宅があり、後には草壁皇子の嶋宮になったといわれる遺跡。
- ・ 1970年代に奈良県立橿原考古学研究所が調査を行って以来、30次に渡る調査が行われている。



飛鳥京跡（正殿石敷）

- ・ 天武天皇の飛鳥浄御原宮の中核部で、宮殿の中心建物と思われる大型建物と、その南側に広範囲な石敷が発見された。
- ・ 1959年から調査が始められており、現在も調査継続中。



酒船石遺跡（亀形石造物）

- ・ 酒船石遺跡の北側の谷底で、亀形石造物を含む導水施設が発見された。遺構の構造から天皇祭祀に使用されていた空間と考えられている。
- ・ 平成11年11月から調査中



キトラ古墳壁画（十二支像 寅）

- ・ 昭和58年：ファイバースコープによる探査が行われ、石槨の奥壁に玄武と思われる壁画を発見
- ・ 平成10年：高性能の超小型カメラで探査、玄武が再確認され、さらに白虎、青龍、天文図の壁画を発見
- ・ 平成12年11月24日特別史跡指定
- ・ 平成13年：デジタルカメラを用い、南壁の朱雀を確認。十二支のトラとみられる顔の獣頭人身像を発見。
- ・ キトラ古墳の壁画には四神・天文図をはじめ、獣頭人身の十二支像が描かれていた。
- ・ 現在天井の星宿図を除いて全ての壁画が剥ぎ取られ、修復中。



ホラント遺跡（石敷）

- ・ 明日香村の南端で新しく発見された遺跡。石敷を敷き詰めるなど、飛鳥中心部の宮殿と類似の遺構。
- ・ 平成 14 年 11 月～12 月の調査の後、平成 15 年 4 月から調査を行っており、現在も調査中



川原寺跡（北限塀と工房）

- ・ 川原寺跡の北端の大垣が見つかり、寺域が南北約 330 m であることが判明。同時に寺の金属製品を作っていた工房も見つかっている。
- ・ 平成 15 年調査で確認。



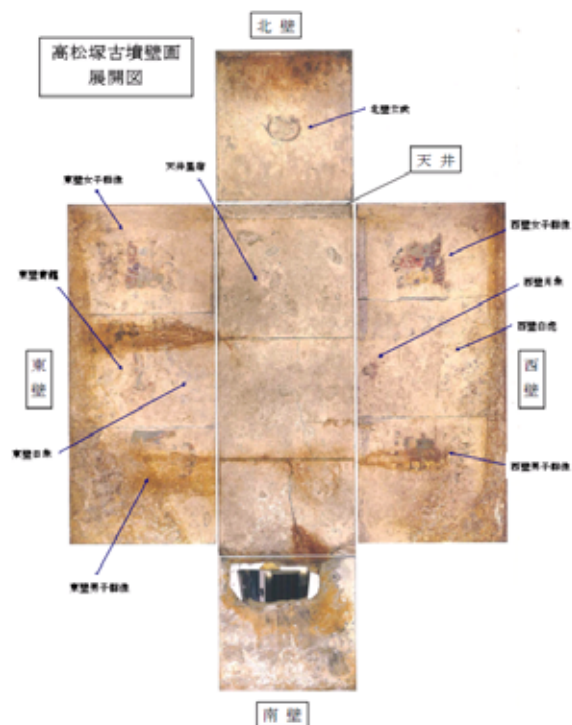
石神遺跡（暦木簡）

- ・ 飛鳥時代の迎賓館と推定されている石神遺跡の北端から出土した、当時の暦。出土した暦としては最古の暦木簡。
- ・ 1981 年からの調査で、7 世紀中頃から 8 世紀初めの建物跡や溝などが発見。



高松塚古墳

- ・ 昭和 47 年 3 月 21 日に発見された我が国初めての極彩色の古墳壁画。昭和 48 年 4 月 23 日に古墳全体を特別史跡に指定、昭和 49 年 4 月 17 日に壁画を国宝に指定。
- ・ 平成 15 年 3 月 12 日文化庁長官決定によって、国宝高松塚古墳壁画の緊急保存対策について、専門家による検討を行うことを目的に、「国宝高松塚古墳壁画緊急保存対策検討会」を設置。



マルコ山古墳

- ・ 明日香村大字真弓に所在する横口式石槨を有した直径約 24m の二段築成の円墳。現在は史跡整備により築造当時の姿に復元。
- ・ 昭和 52 年から平成 2 年にかけて合計 3 回の調査が行われた後、平成 17 年度にも調査が行われた。



真弓罐子塚（まゆみかんすづか）古墳

- ・ 真弓罐子塚古墳は舌状に伸びる丘陵の先端に築かれた直径約 23m、高さ約 5m の円墳、埋葬施設は花崗岩の巨石を使用した横穴式石室で全長 10m 以上。
- ・ 平成 18 年に調査。



坂田寺跡

- ・ 県道に下水道管を埋設する工事に先立って行った調査で基壇建物と回廊が検出。
- ・ 平成 10 年調査で、東面回廊に須弥壇を伴う立派な建物（推定金堂）と、規模不明の仏殿らしき建物跡を発見。
- ・ 平成 16 年発掘調査で、西南の建物基壇と南面回廊の西に当たると思われる部分を検出。基壇では羽目石、葛石などが、奈良時代の面影を偲ばせる状態で出土。



甘樫丘東麓遺跡

- ・ 甘樫丘の東麓に位置するこの遺跡からは、焼けた土器のほか建築部材や炭などが出土。クーデターの際、中大兄皇子が陣をはった飛鳥寺とも対峙する位置にあり（写真奥の集落の中に飛鳥寺がある）、土器の年代観も一致することから、谷の上方に蘇我邸の存在が推定される。
- ・ 平成 6 年：蝦夷、入鹿邸の炎上をうかがわせる焼け焦げた建築部材や土器片が出土
- ・ 平成 17 年：7 世紀の建物跡 6 棟出土
- ・ 平成 20 年：7 世紀中ごろに廃絶した倉庫とみられる建物跡が見つかり総柱建物と塀の柱穴を壊して掘られた土坑を発見



竹田遺跡

- 平成 19 年度に第 4 次の調査が実施された。
- 掘立柱建物 6 棟、掘立柱塀 1 条が検出されており、これらは大規模な土地造成を施して建てられている。



富本銭

- 平成 10 年、「万葉文化館」工事に際し、工房遺跡・飛鳥池遺跡（7 世紀後半～8 世紀初め）で、「富本（本）（ふほん）」の文字がある銅銭「富本七曜銭（富本銭）」とその破片 33 点を発見。
- 7 世紀後半の地層から出土しており、和銅元（708）年鑄造で日本初の本格的な貨幣とされる和同開珎（わどうかいちん）より古い、最古の鑄造貨幣とされ、古代史の定説を覆し、日本史の教科書を書き換える第一級の発見で、貨幣史、古代経済史などの研究に大きな影響を与えた。



- ・ 4 . 世界遺産登録にむけた動き
- ・ 明日香村が桜井市、橿原市、奈良県と共同提案した「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」が、平成 19 年 1 月 30 日に我が国の世界遺産暫定一覧表に追加記載された。

表 4 文化審議会文化財分科会世界文化遺産特別委員会報告（平成 19 年 1 月 23 日）抜粋
「世界遺産暫定一覧表に追加記載することが適当とされた文化遺産」（抄）

「世界遺産条約履行のための作業指針」の規定に基づき、我が国の世界遺産暫定一覧表に追加記載すべき文化遺産として、現時点において顕著な普遍的価値を持つ可能性が高いと考えられ、将来的に世界遺産一覧表へ登録推薦することが適切であると考えられるものを念頭に置きつつ、4 件の文化資産を選択。

飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群（奈良県 / 明日香村・桜井市・橿原市）

崇峻 5（592）に推古天皇が即位してから、和銅 3 年（710）に平城京へ遷都するまでの間、飛鳥の地に営まれた宮都の関連遺跡群及び周辺の文化的景観から成る。

100 年以上にわたる累代の天皇・皇族の宮殿をはじめ、それに付属する諸施設（苑地など）、我が国最古の本格的都城やその内外に営まれた諸寺院、当時の有力者の墳墓などの遺跡群は今なお地下に良好に遺存しており、すでに調査された遺構・遺物は古代国家成立期における政治・社会・文化・宗教等の在り方を生々しく伝えている。また、これらの遺跡群が伝える当時の設計理念・立地計画・構築技術をはじめ、個々の遺跡に描かれた壁画等には、中国大陸及び朝鮮半島の影響が色濃く認められ、東アジア諸国との技術及び文化の交流を明瞭に示す。また、大和三山は最古の和歌集である『万葉集』にも数多く歌われるなど、我が国の代表的な古典文学作品とも関わりが深く、後世の芸術活動にも大きな影響を与えている。

これらの遺跡群は、周辺の自然的環境とも一体となって良好な歴史的風土を形成しており、文化的景観としても優秀である。このように、本資産は日本の古代国家の形成過程を明瞭に示し、中国大陸及び朝鮮半島との緊密な交流の所産である一群の考古学的遺跡と歴史的風土から成り、両者が織りなす文化的景観としても極めて優秀であることから、顕著な普遍的価値を持つ可能性は高い。

また、本資産は、日本の世界文化遺産及び日本の世界遺産暫定一覧表に記載された文化資産には未だ見られない分野の文化資産である。

したがって、我が国の世界遺産暫定一覧表に記載することが適当と判断される。ただし、世界遺産一覧表への登録推薦に向け、以下の各事項を確実に充足することが必要である。

考古学的遺跡と一体を成し、独特の地勢を含む「歴史的風土」については、遺跡の周辺環境として位置付けるのみならず、集落・農地・森林など良好な文化的景観の観点からの評価についても検討することが必要である。

特別史跡藤原宮跡及び名勝大和三山の周辺地域の保全措置が万全でないため、条例等の下に行き規制を行うなど適切な保全措置を講ずることが必要である。

人口及び世帯数、就業構造

1. 人口・世帯数・平均世帯人員の推移

- ・ 人口は平成2年をピークに減少に転じ、近年はさらに減少幅が拡大している。

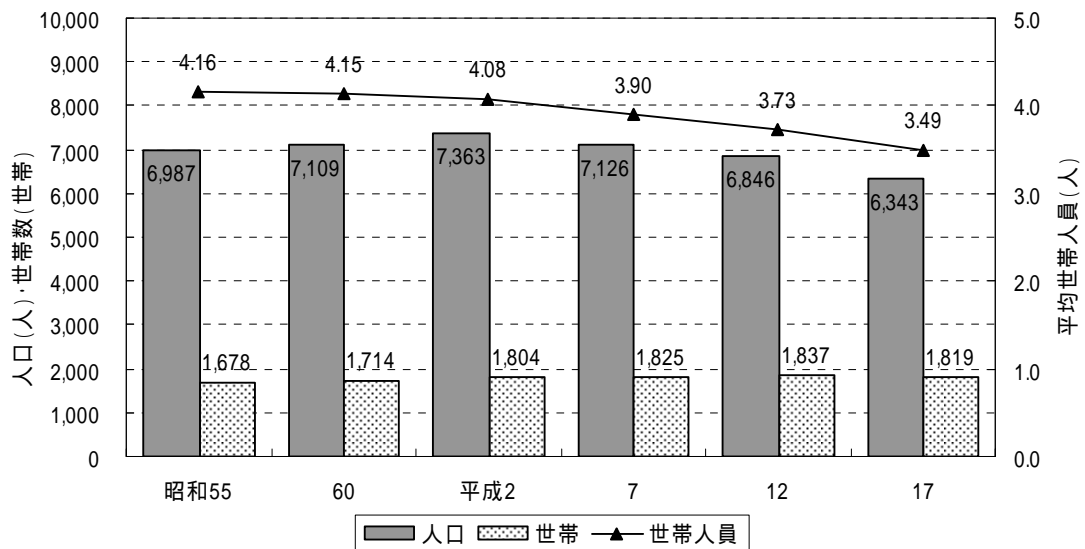


図1 人口・世帯数・平均世帯人員の推移（国調）

- ・ 近隣自治体と比較すると明日香村の人口減少率は極端に大きい。

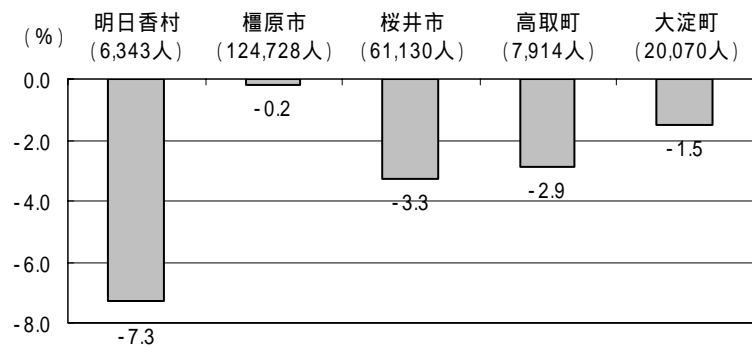


図2 近隣自治体との人口減少率の比較(H12～H17)（国調）

2. 年齢別人口

- ・ 高齢化率（65歳以上人口率）は27.3%、15歳未満は10.4%となっており、少子高齢化が急速に進行。

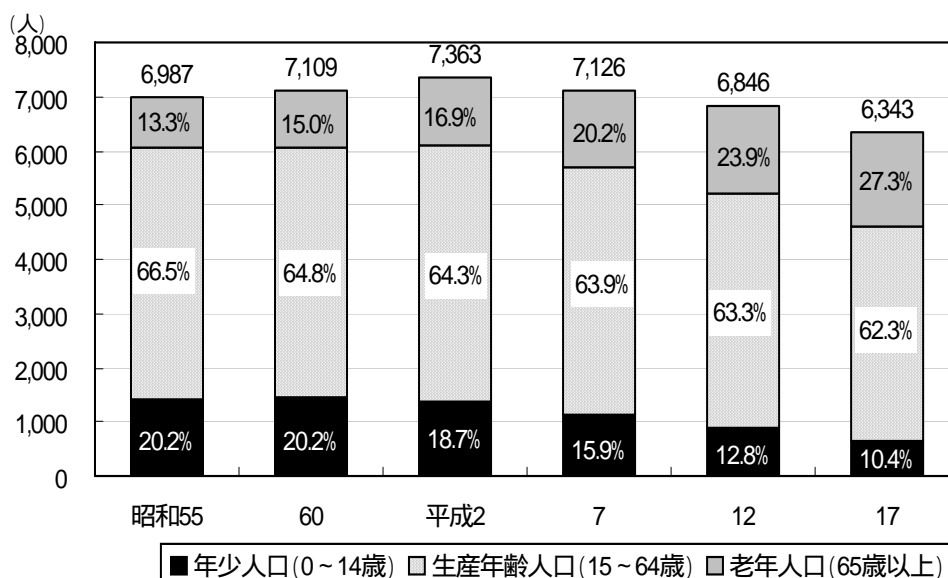


図3 年齢別人口（3区分）の推移（国調）

- ・ 近隣自治体と比較すると、65歳以上人口率は高く、15歳未満人口率は低い。

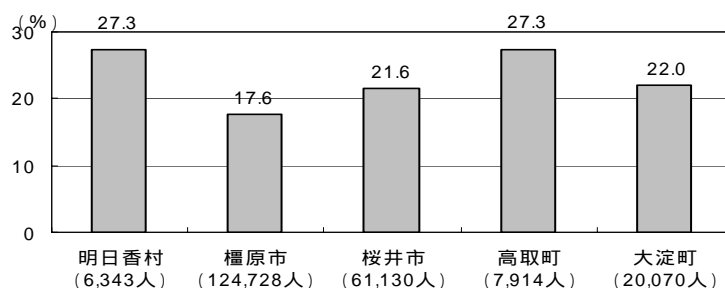


図4 高齢者人口率の比較（H17国調）

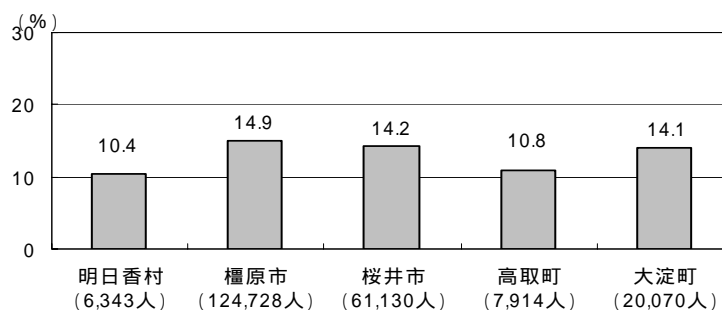


図5 若年人口率の比較（H17国調）

3. 人口動態

- ・ 総人口が減少に転じた平成2年以降、転入・出生がともに減少し、さらに平成13年ごろからは死亡数が増加。

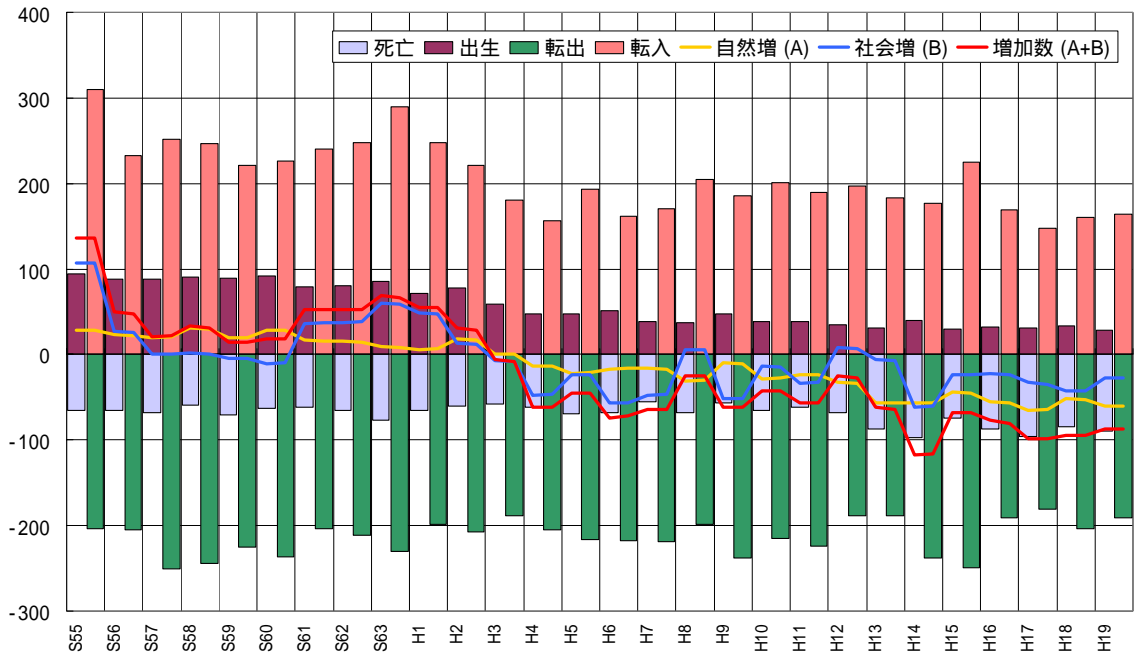


図6 人口動態(住基)

- ・ 周辺自治体、県下の人口動態は自然減・社会減状態ではあるが、特に明日香村では何れも比率が特に高い。

表1 人口動態の比較 (H18.10～H19.91 :住基)

	H18.10人口	自然増				社会増				全人口	
		出生	死亡	増減	率	転入	転出	増減	率	増減	率
明日香村	6,057	33	74	-41	-0.68%	151	194	-43	-0.71%	-84	-1.39%
橿原市	124,600	1,196	955	241	0.19%	5,003	5,263	-260	-0.21%	-19	-0.02%
桜井市	60,522	509	534	-25	-0.04%	1,794	2,012	-218	-0.36%	-243	-0.40%
高取町	7,893	56	103	-47	-0.60%	240	193	47	0.60%	0	0.00%
大淀町	19,692	144	212	-68	-0.35%	596	658	-62	-0.31%	-130	-0.66%
市部計	1,106,740	9,203	8,935	268	0.02%	40,643	44,187	-3,544	-0.32%	-3,276	-0.30%
郡部計	298,587	2,201	2,904	-703	-0.24%	10,186	11,733	-1,547	-0.52%	-2,250	-0.75%
県計	1,405,327	11,404	11,839	-435	-0.03%	50,829	55,920	-5,091	-0.36%	-5,526	-0.39%

- ・ 転入出は県内では転入、転出とも橿原市の割合が高く、県外では大阪府の割合が高い。

表2 地域別転入転出先(H18.10～H19.9)

(人)

	転入	転出
奈良市	3	5
大和高田市	17	2
天理市	2	5
橿原市	32	55
桜井市	4	8
五條市	2	1
御所市	6	1
高取町	6	6
その他	19	31
県計	91	114

	転入	転出
大阪	19	28
京都	9	6
兵庫	5	8
和歌山	2	2
三重	4	4
東京	3	6
その他	18	26
計	60	80

4. 就業構造

- ・ 第1次産業就業者数は減少傾向にあり、明日香法制定時（昭和55年）と比較すると実数、割合ともに半分程度となっている。
- ・ 第1次産業の減少とは反対に、第3次産業就業者数の占める割合が増加している。
- ・ 近隣自治体と比較すると第1次産業の占める割合が極めて高い。

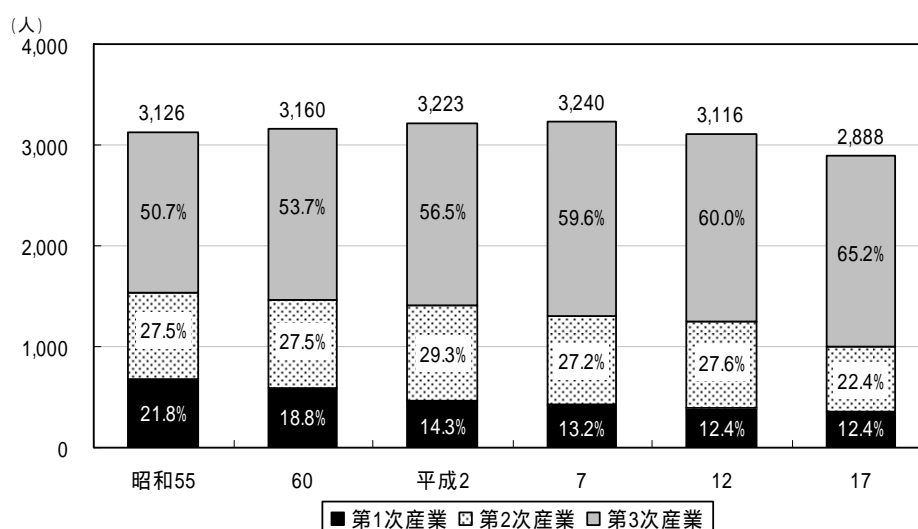


図7 産業別就業者数の推移 (国調)

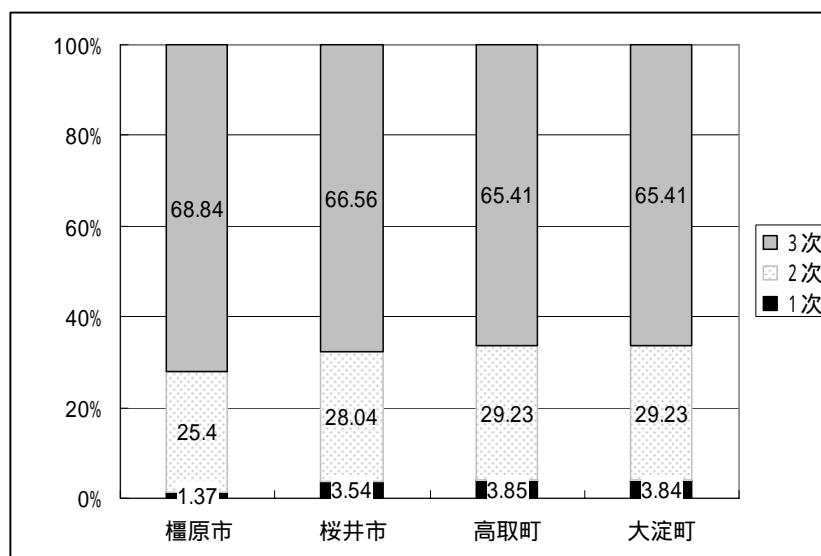


図8 近隣自治体の産業別就業者数構成比(H17 国調) (%)

5. 通勤通学構造

- ・ 通勤通学者の村外依存比率が他市町村と比べても高い。

表3 通勤通学構造の特徴 (国調)

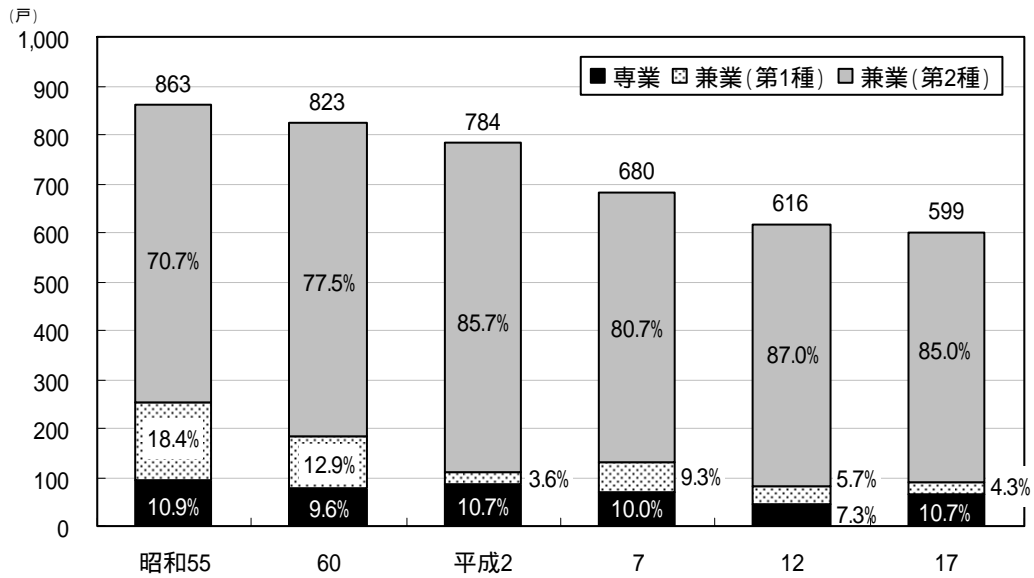
地域		就業者・通学者数(人)					
		総数	自宅	自市町村 自宅外	他市町村		
					県内	他県	
明日香村	人数	3,361	621	623	2,177	1,507	610
	構成比	100.0%	18.5%	18.5%	64.8%	44.8%	18.1%
奈良県	人数	726,835	70,698	243,486	412,651	193,787	218,864
	構成比	100.0%	9.7%	33.5%	56.8%	26.7%	30.1%
橿原市	人数	62,813	5,143	22,885	34,785	21,426	13,359
	構成比	100.0%	8.2%	36.4%	55.4%	34.1%	21.3%
桜井市	人数	30,907	3,729	10,048	17,130	11,443	5,687
	構成比	100.0%	12.1%	32.5%	55.4%	37.0%	18.4%
高取町	人数	3,851	561	801	2,489	1,844	645
	構成比	100.0%	14.6%	20.8%	64.6%	47.9%	16.7%
大淀町	人数	10,035	1,195	3,237	5,603	4,448	1,155
	構成比	100.0%	11.9%	32.3%	55.8%	44.3%	11.5%

農林業

1. 農業

(1) 農家数

- ・ 農家数は 599 戸(平成 17 年度)で、うち 85.0%を第 2 種兼業農家が占める。
- ・ 近隣自治体と比較すると専業農家の割合が低く、反面 2 種兼業の割合が高い。



資料：農林業センサス

図 1 農家数の推移

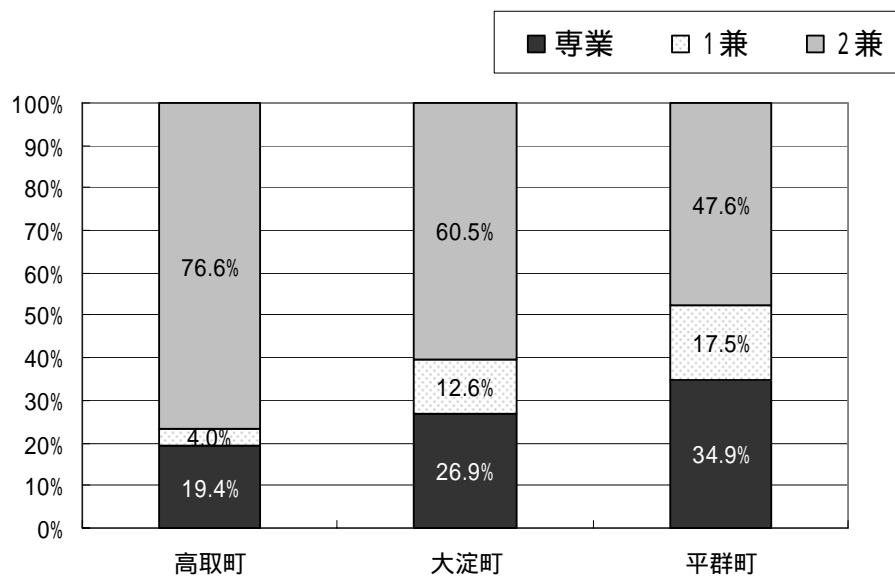


図 2 他自治体の農家数の割合

(2) 農業従事者の年齢構成

- ・ 農業従事者の中心は70歳以上の高齢者である。75歳以上の農業従事者が特に多い。
- ・ 県下平均や近隣自治体と比べても高齢者の割合が高い。

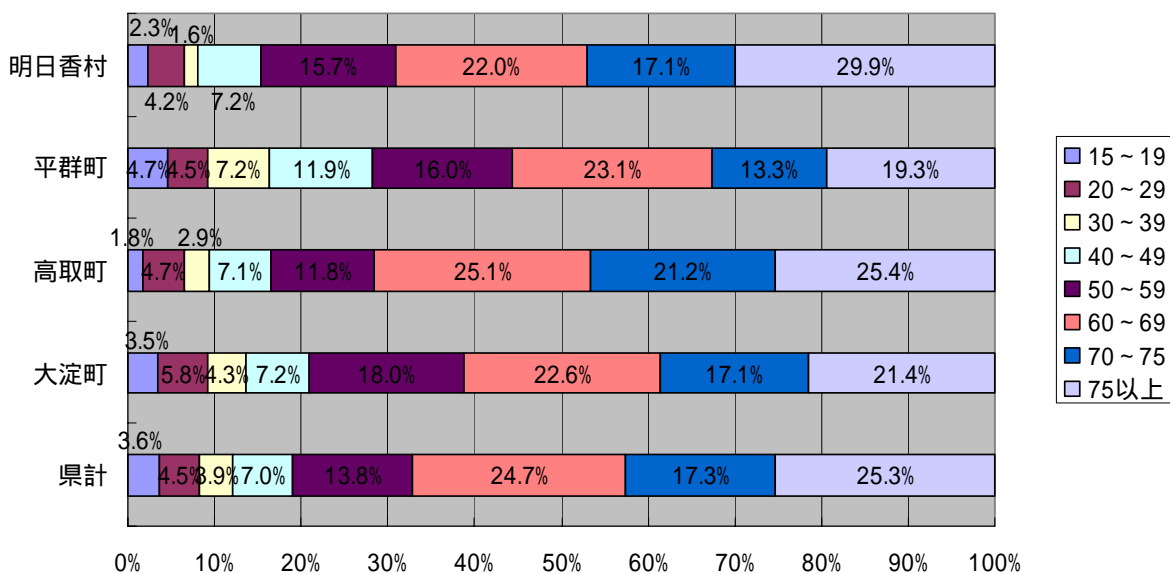


図3 年齢階層別農業従事者の割合

(3) 経営耕地面積

- ・ 経営耕地面積は明日香法制定当時(昭和55年)の約半分にまで減少している。

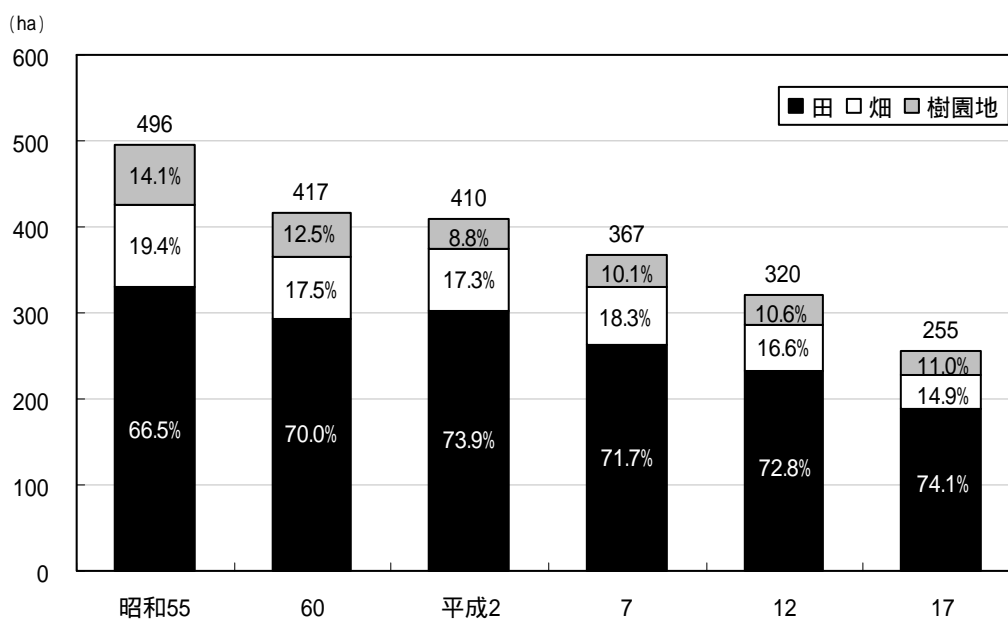


図4 経営耕地面積の推移

(5) 遊休農地等の状況

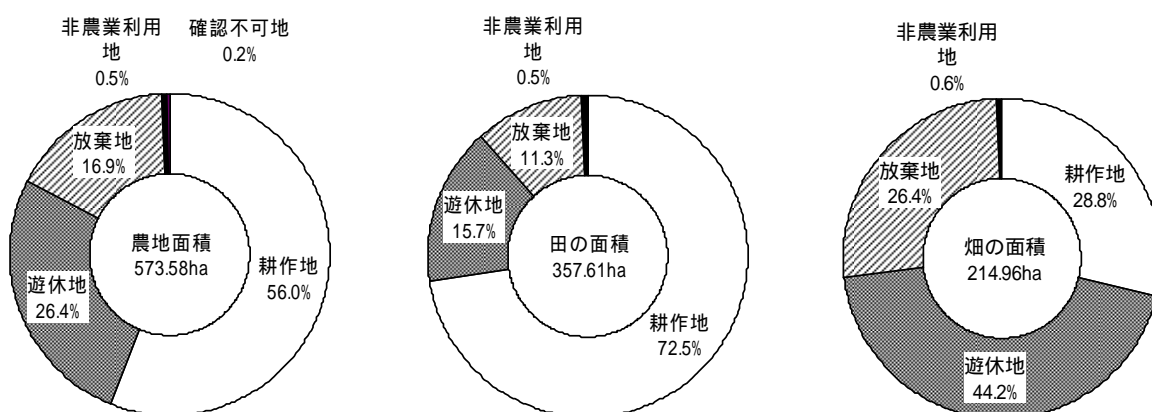
- 平成 19 年 6 月 7 日現在、農地台帳に記載されている農地の合計は 573.58ha、そのうち耕作地 321.16ha (56.0%)、遊休農地 151.31ha (26.4%)、放棄地 97.01ha (16.7%)、(平成 17 年度および平成 19 年度に明日香村で実施した遊休農地調査結果)
- 地目別では、田では耕作地が 72.5%と多いが、畑(果樹含む)では耕作地は 28.8%、遊休地が 44.2%、放棄地が 26.4%を占めている。遊休地・耕作放棄地のうち 61.1%を田(果樹含む)が占める。

遊休地：耕作されていないが容易に耕作を再開できる農地
 放棄地：藪化や林地化が進み容易に耕作を再開できない農地
 非農業利用地：宅地や倉庫、資材置き場などに利用されている農地
 確認不可地：所在地を特定できなかった農地

表 1 農地(農地台帳ベース)の現況

現況	計	田	畑
耕作地	321.16	259.28	61.88
遊休地	151.31	56.32	94.99
放棄地	97.01	40.28	56.72
非農業利用地	3.11	1.73	1.37
確認不可地	0.99		
合計	573.58	357.61	214.96

(単位 : ha) 平成 17 年度・平成 19 年度明日香村遊休農地調査



平成 17 年度・平成 19 年度明日香村遊休農地調査

図 5 地目別の農地現況

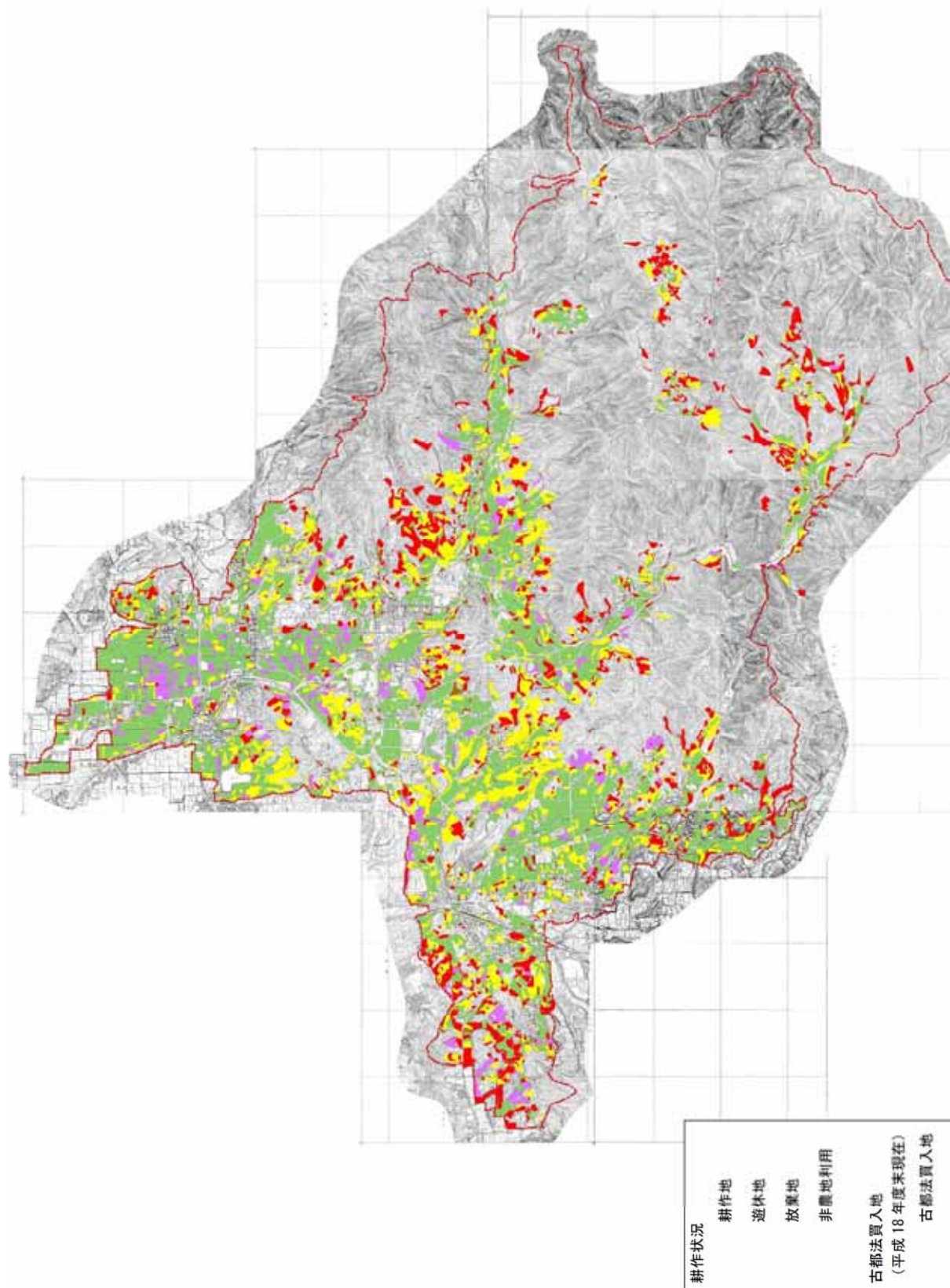


図6 遊休農地等の分布状況

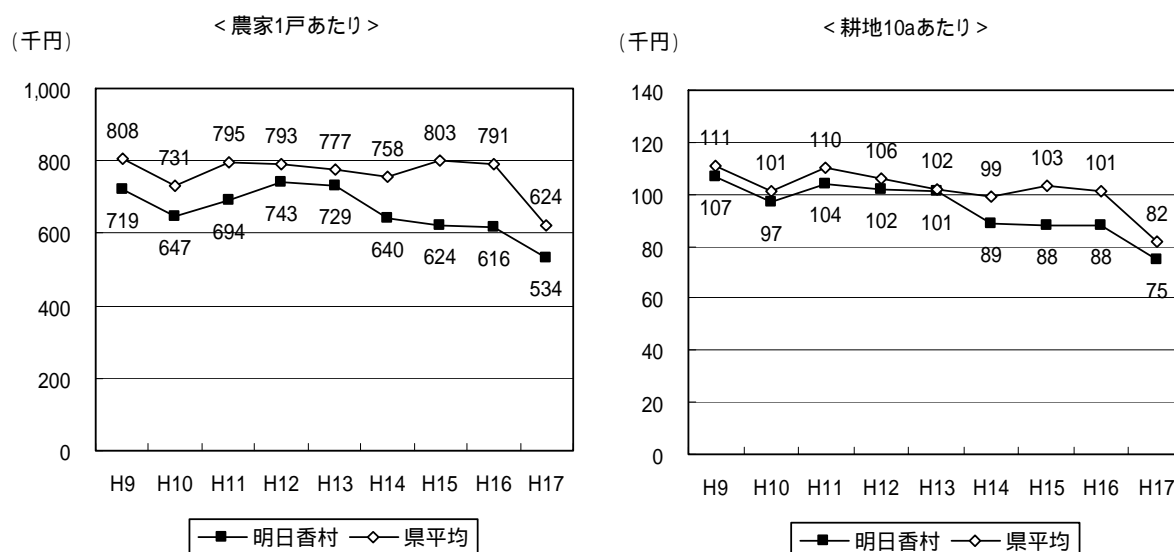
(5) 農業粗生産額と生産農業所得

- ・平成17年度の農業粗生産額は7億8千万円となっている。生産農業所得は農家1戸あたりでは53万4千円、耕地10aあたりでは75,000円となっている。
- ・農業所得は農家1戸あたり、耕地10aあたりともに県平均を下回っている。また、生産農業所得は平成12年度以降、減少が続いている。

表2 農業粗生産額と農業所得の推移

年度	農業粗生産額 (百万円)	生産農業所得(千円)			
		農家1戸あたり		耕地10aあたり	
		明日香村	県平均	明日香村	県平均
H9	927	719	808	107	111
H10	835	647	731	97	101
H11	903	694	795	104	110
H12	926	743	793	102	106
H13	912	729	777	101	102
H14	860	640	758	89	99
H15	840	624	803	88	103
H16	850	616	791	88	101
H17	780	534	624	75	82

資料：奈良県農林水産統計年報



資料：奈良県農林水産統計年報

図7 生産農業所得の推移

(7) 他の自治体との比較

- ・ 面積や農家数が明日香村に類似した県内他自治体との比較を下表に示す。
- ・ 大淀町は明日香村よりも農家数及び1農家あたりの経営耕地面積が少ないが、1農家あたりの農業粗生産額は上まわっている。平群町は1農家あたりの経営耕地面積が明日香村の1.3倍だが、1農家あたりの農業粗生産額は2.9倍となっている。
- ・ 耕作放棄地面積をみると、明日香村は他の自治体を大きく上回っている。

表3 他自治体との農業比較

	人口 (人)	総面積 (ha)	農家数 (戸)	経営耕地 面積(a)	1農家当り の経営耕地 面積(a)	耕作放棄 地 (a)	農業粗 生産額 (万円)	1農家当 りの農業 粗生産額 (万円)
明日香村	6,343	2,408	599	25,458	43	6,333	78,000	130
高取町	7,914	2,577	456	12,216	27	3,951	45,000	99
大淀町	20,070	3,806	494	10,938	22	4,211	67,000	136
平群町	20,286	2,390	412	23,424	57	3,272	158,000	383

資料：農林業センサス

2. 林業

(1) 樹種別面積

森林の93.6%が人工林であり、その97.1%が針葉樹林である。

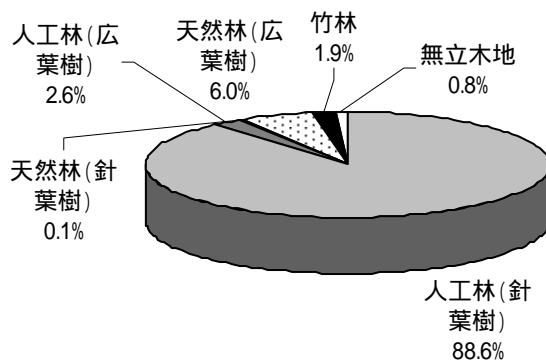


図8 樹種別面積の割合

(2) 齢級構成

11 齢級以上(林齢51年生以上)の森林が48.7%と最も多い。9 齢級以上の森林が80.5%を占め、森林全体として高齢級化が進んでいる。

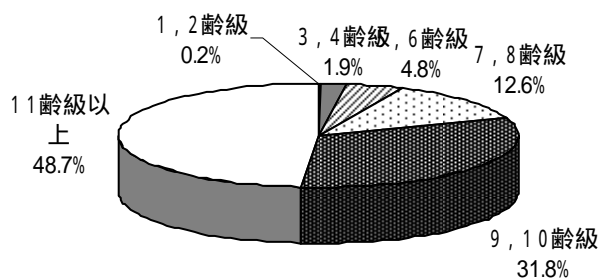


図9 齢級別面積の割合

商工業

1 卸売業・小売業

- ・ 卸売業・小売業の事業所総数は 78 事業所で、1 事業所あたりの平均従業者数は 2.7 人と非常に小規模である。大半が個人経営の小売店舗である。
- ・ 事業所数、年間販売額とも減少する傾向にあったが、近年は事業所数は微減、従業員数と年間販売額はやや増加している。

表 1 卸売業・小売業の事業所数、従業員数、年間販売額

年度	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	年間販売額 (万円)	平均従業者数 (人/事業所)
昭和 57 年	71	135	110,820	1.9
60	68	157	141,465	2.3
63	108	114	205,760	1.1
平成 3 年	97	186	218,962	1.9
6	95	200	242,524	2.1
9	91	228	247,195	2.5
14	80	250	231,271	3.1
16	83	180	210,906	2.2
19	78	211	215,586	2.7

資料：商業統計

- ・ 人口規模等が類似する周辺自治体と比較すると、1 事業所あたりの従業員数、年間商品販売額とも少ない。
- ・ 高取町には街道沿いの商店街やスーパーが立地しているため、事業所数、販売額ともに明日香村に比べ多い。

表 2 他の自治体との卸売業・小売業の比較

	人口(人)	面積 (km ²)	事業所数	従業者数 (人)	1 事務所 あたりの 平均従業 者数	年間商品 販売額 (万円)	1 事業所 あたりの 年間販売 額 (万円)	年間販売 額の増減 率 (対 H16, %)
明日香村	6,343	24.08	78	211	2.7	215,586	2,764	2.2
高取町	7,914	25.77	122	401	3.3	761,465	6,242	29.9
山添村	4,595	66.56	56	210	3.8	291,997	5,214	13.2
三宅町	7,764	4.07	62	206	3.3	334,215	5,391	28.8

資料：商業統計

2 製造業

- ・ 製造業の事業所総数は15事業所で、うち8事業所は従業員10名以下である。主たる業種は電気・電子、縫製業の下請及び製材業である。
- ・ 事業所数、製造品出荷額ともに平成2年をピークに減少している。

表3 製造業の事業所数、従業員数、年間出荷額等

年度	事業所数 (事業所)	従業員数 (人)	現金給与総額 (万円)	製造品出荷額等 (万円)	粗付加価値額 (万円)
昭和55年	18	156	23,280	119,390	56,423
60	24	243	49,371	214,481	93,216
平成2年	31	272	64,173	264,828	106,917
12	25	210	70,198	257,343	137,671
17	15	175	61,484	231,340	142,943

資料：工業統計

- ・ 周辺自治体と比較すると、一事業所当たりの従業員数、年間出荷額ともに少ない。
- ・ 高取町には中堅の製薬業が立地しており従業員数、出荷額ともに明日香村を大きく上回る。

表4 周辺自治体との製造業の比較

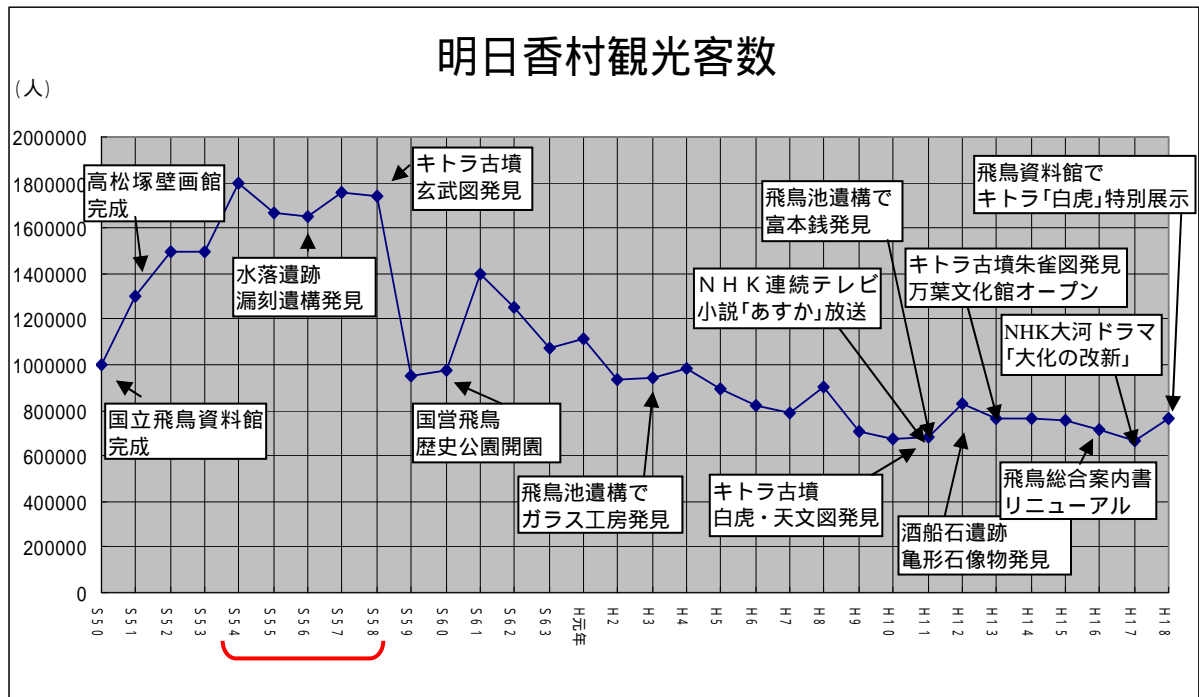
	人口(人)	面積 (km ²)	事業所数	従業員数 (人)	1事業所 あたりの 平均従業員数	年間製造 品出荷額 等(万円)	1事業所 あたりの 年間出荷 額 (万円)	年間出荷 額の前年 比(%)
明日香村	6,343	24.08	13	218	16.8	233,210	17,939	100.8
高取町	7,914	25.77	26	718	27.6	1,016,991	39,115	97.8
平群町	20,286	23.90	20	384	19.2	510,809	25,540	99.0
三郷町	23,062	8.80	13	230	17.7	387,630	29,818	145.3

資料：工業統計

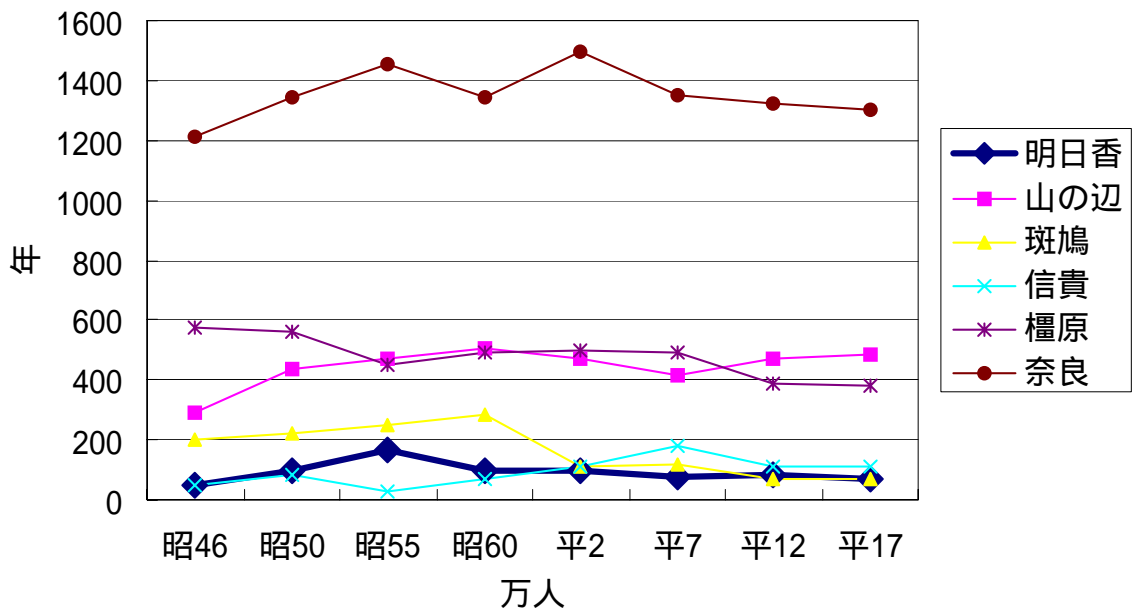
観光

1. 観光入込客数

- 観光客数はピーク時（昭和 50 年代後半）の半分程度まで減少している。近年は年間約 70 万人前後で推移している。

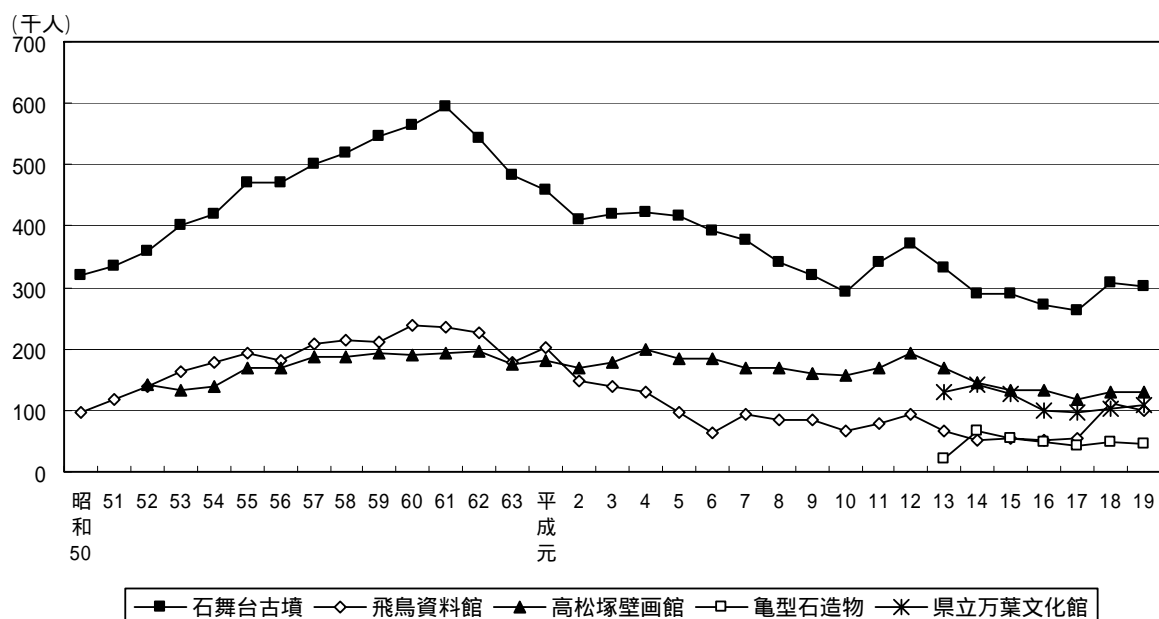


奈良県内周辺観光地の入込客数の推移



3. 主要観光施設利用者数

- ・ 石舞台古墳と明日香資料館の利用者数が昭和 61 年頃をピークに大きく減少している。高松塚壁画館については、減少幅はそれほど大きくない。平成 13 年にオープンした亀型石造物、県立万葉文化館については横ばい又は微増となっている。
- ・ 近年は、石舞台古墳、飛鳥資料館の利用者数がやや増加している。その他の施設については横ばいとなっている。

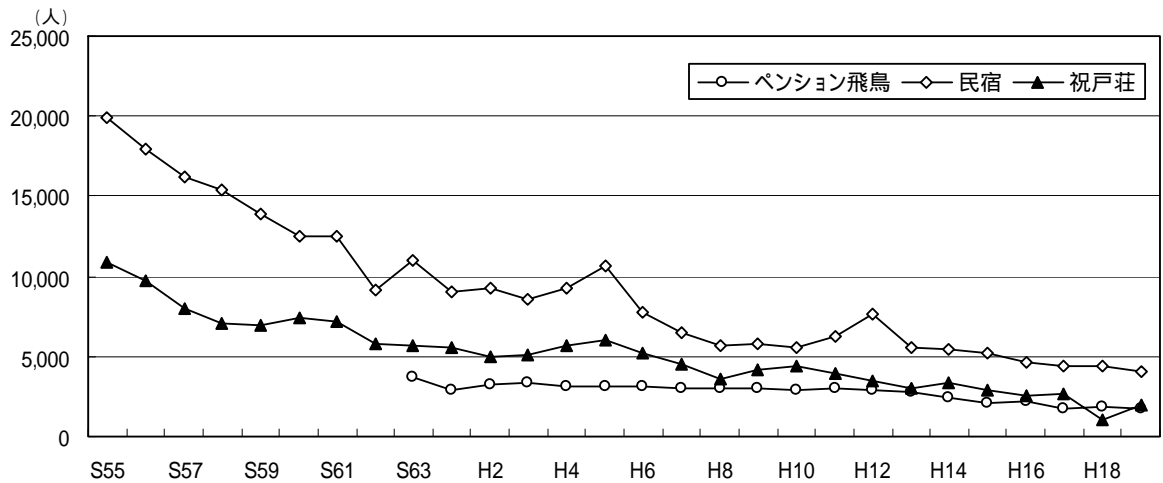


資料：明日香村観光開発公社、公園緑地管理財団飛鳥管理センター・県立万葉文化館

図3 主要観光施設の利用者数の推移

4. 宿泊者数

- ・ 民宿の宿泊者数の減少幅が大きく、昭和 55 年の 4 分の 1 にまで減少している。
- ・ ペンション飛鳥、祝戸荘ともにゆるやかに減少している。

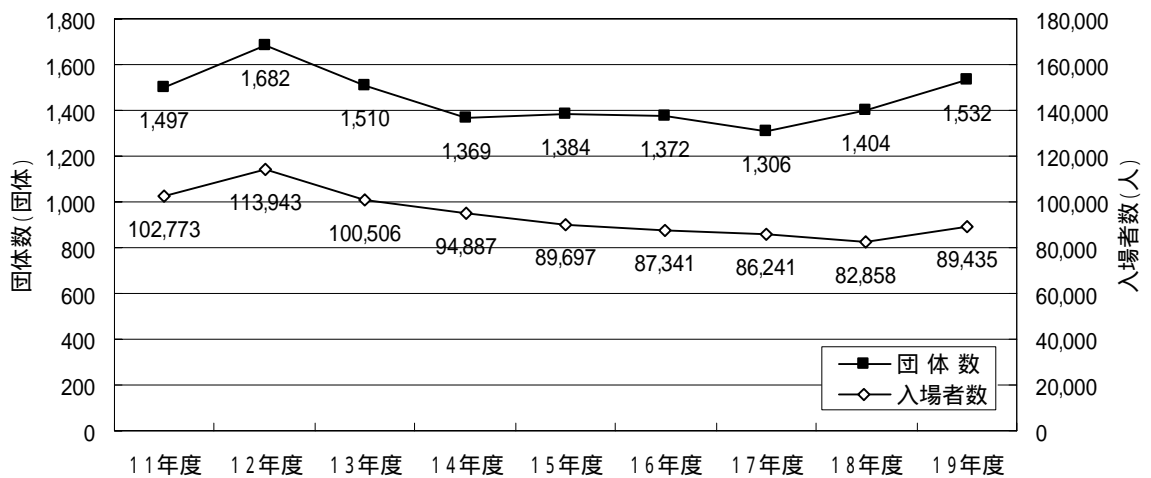


資料：明日香村

図4 宿泊者数の推移

5. 団体観光客数

- ・ 石舞台古墳への団体利用数をみると、平成 19 年度には 1,532 団体が入場している。
- ・ 近年は団体利用数が回復する傾向にあり、それに伴って石舞台古墳の入場者数もやや増加している。



資料：明日香村観光開発公社

図5 石舞台古墳の入場者数、団体利用数

6. 観光客の特徴

- ・ 利用者の年齢層は、50歳代が最も多く、次いで40歳代、60歳代となっている。
- ・ 利用者のグループは、友人・知人と訪れる人が最も多く、次いで夫婦や家族となっている。団体での利用者は16.3%である。
- ・ 明日香村まで2時間以上かけて訪れた人が最も多く、31.8%を占めている。

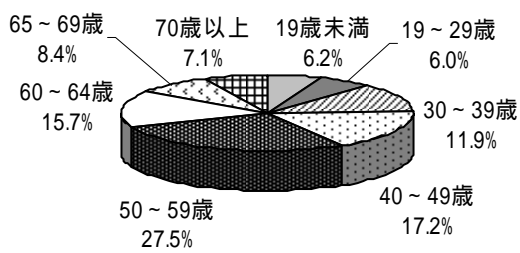


図6 年齢層

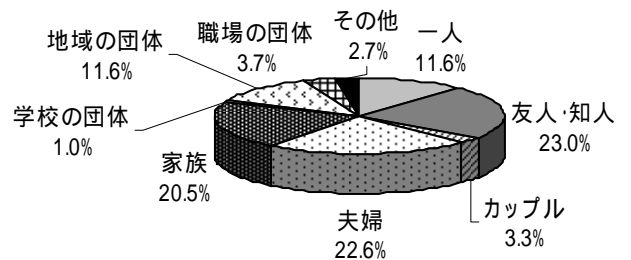
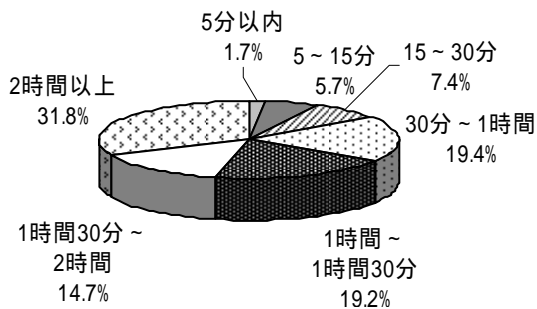
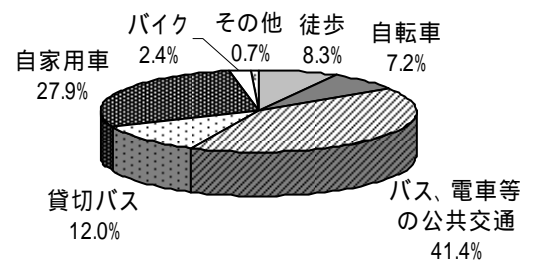


図7 グループ



へ

図8 飛鳥までの所要時間



資料：国営飛鳥歴史公園事務所調

図9 利用交通

7. 外国人観光客の動向

- ・ 全国および奈良県への外国人観光客は増加する傾向にある。平成 16 年度に奈良県を訪問した外国人は 295 千人と推定されている。
- ・ 奈良県を訪れる外国人観光客を国籍別にみると、韓国が大きく伸びていたが平成 16 年度は減少している。

表 1 訪日外客数の推移

		H12	H13	H14	H15	H16
訪日外客数(全国)		4,757,146	4,771,555	5,238,963	5,211,725	6,137,905
奈良県への 推定訪問者数 ()	全体	176,000	234,000	272,000	261,000	295,000
	韓国	54,000	50,000	71,000	109,000	71,000
	台湾	28,000	29,000	27,000	42,000	49,000
	中国	7,000	13,000	29,000	31,000	22,000
	米国	20,000	48,000	36,000	23,000	36,000

(単位：人)

(独)国際観光振興機構が実施する「訪日外客訪問地調査」より、奈良県の「推定訪問者数」=「訪日客数」×「訪問率」により推定

資料：奈良県の外国人観光客動向実態調査結果報告書（平成 19 年 3 月 16 日）奈良県観光交流局文化国際課

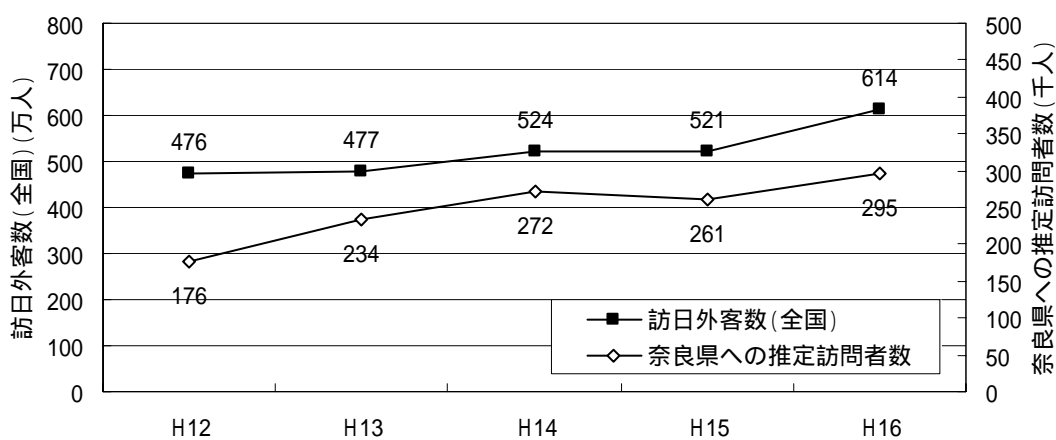


図 10 訪日外客数(全国)および奈良県への推定訪問者数の推移

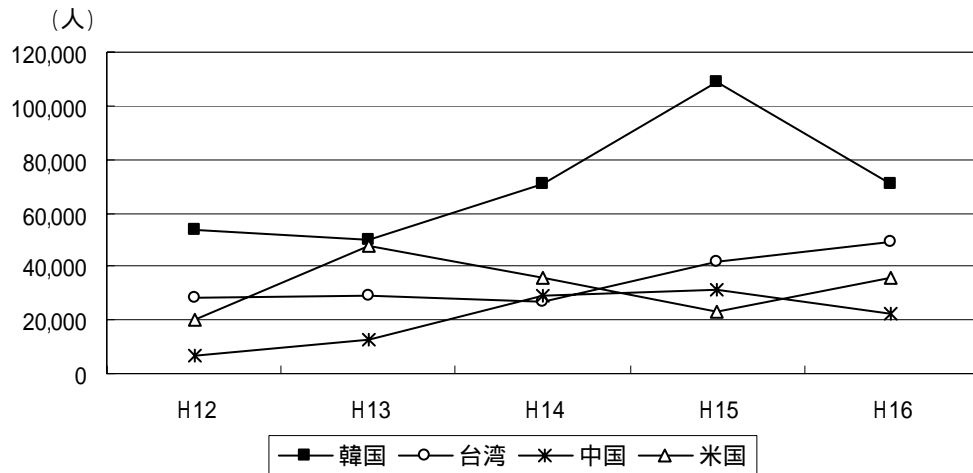


図 1 1 および奈良県への推定訪問者数の推移

8. 直売所の売上実績

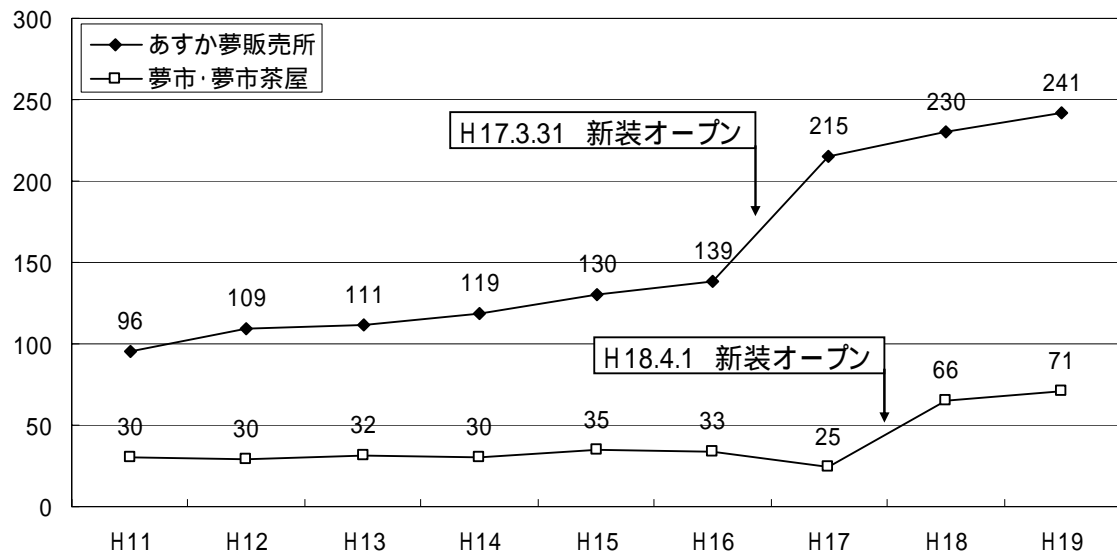
- ・ あすか夢販売所は平成 17 年 3 月 31 日に、夢市・夢市茶屋は平成 18 年 4 月 1 日に新築オープンし、どちらも大きく売上額を伸ばしている。その後も順調に売り上げが伸びている。
- ・ 平成 19 年度の販売額は、あすか夢販売所が約 241 百万円、夢市・夢市茶屋が約 71 百万円となっている。

表 2 あすか夢販売所・夢市・夢市茶屋の売上額の推移

年度	あすか夢販売所		夢市・夢市茶屋				備考
	売上額 (円)	客数 (人)	売上額(円)			客数 (人)	
			夢市	夢市茶屋	計		
H11	95,835,325	82,655	26,283,523	4,057,140	30,340,633	36,352	
H12	109,247,420	102,687	22,441,829	7,154,590	29,596,419	34,064	
H13	111,220,718	107,522	23,520,896	8,218,180	31,739,076	33,650	
H14	118,983,611	115,026	22,075,204	8,014,496	30,089,700	30,647	
H15	130,264,373	122,409	21,216,255	13,420,052	34,636,307	34,310	
H16	138,899,692	125,535	21,318,165	11,960,707	33,278,872	33,825	3/31 あすか夢販売所改装オープン
H17	215,497,120	184,623	14,577,354	10,309,100	24,886,454	24,741	
H18	230,135,396	197,192	37,473,737	28,163,846	65,637,583	59,844	4/1 夢市・夢市茶屋改装オープン
H19	241,496,523	202,553	37,126,405	33,405,108	70,531,513	60,276	

資料：明日香村地域振興公社

(百万円)



資料：明日香村地域振興公社

図 1 2 あすか夢販売所・夢市・夢市茶屋の売上額の推移

9. 観光資源の分布状況

- ・ 広い範囲に史跡や社寺が分布しているほか、博物館や展示施設が村内及び周辺で5施設立地している。
- ・ 国営飛鳥歴史公園は4地区開園しており、現在、キトラ古墳周辺地区が整備中である。

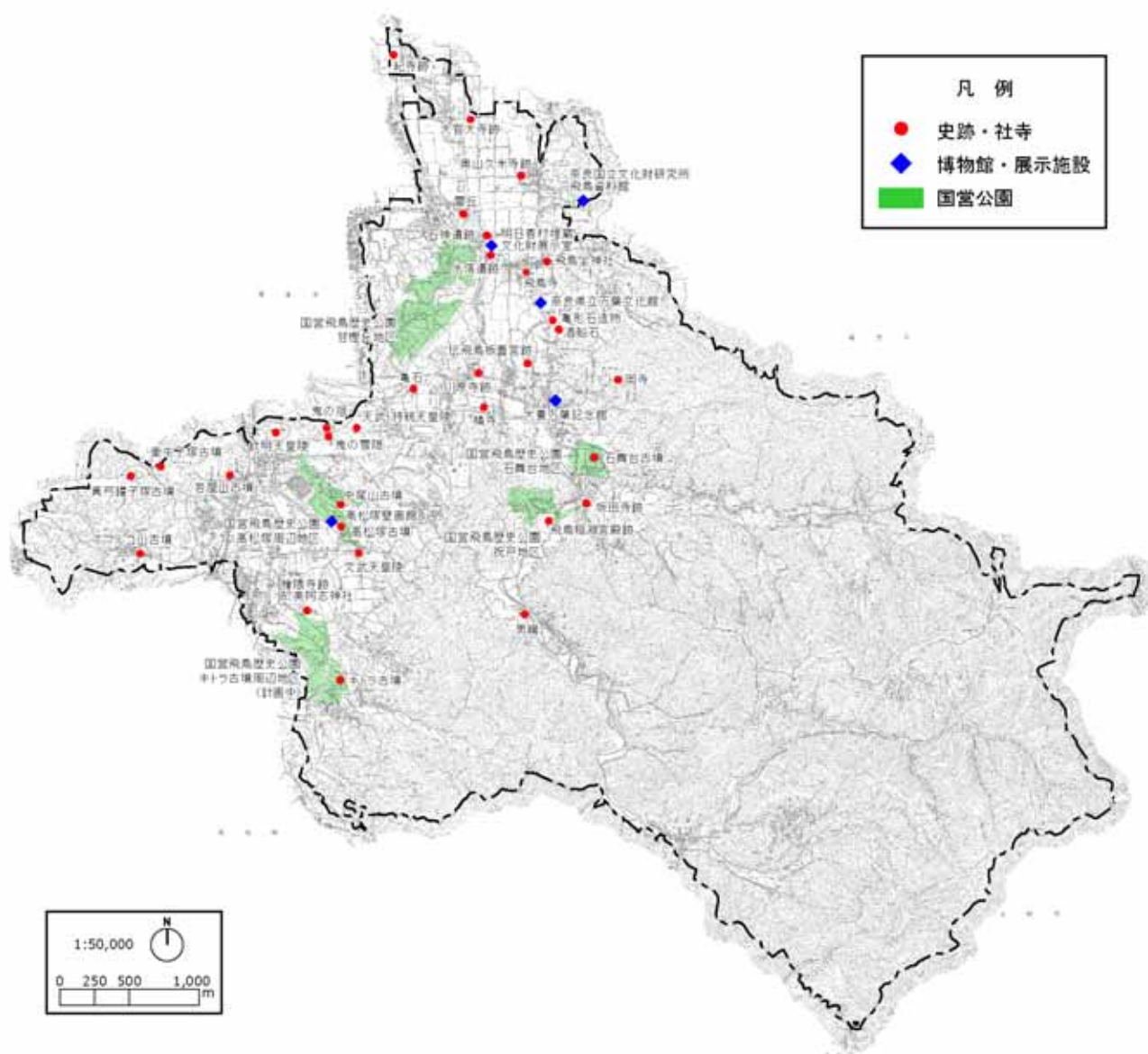


図13 観光資源分布図

土地利用・景観

1. 市街地拡大傾向

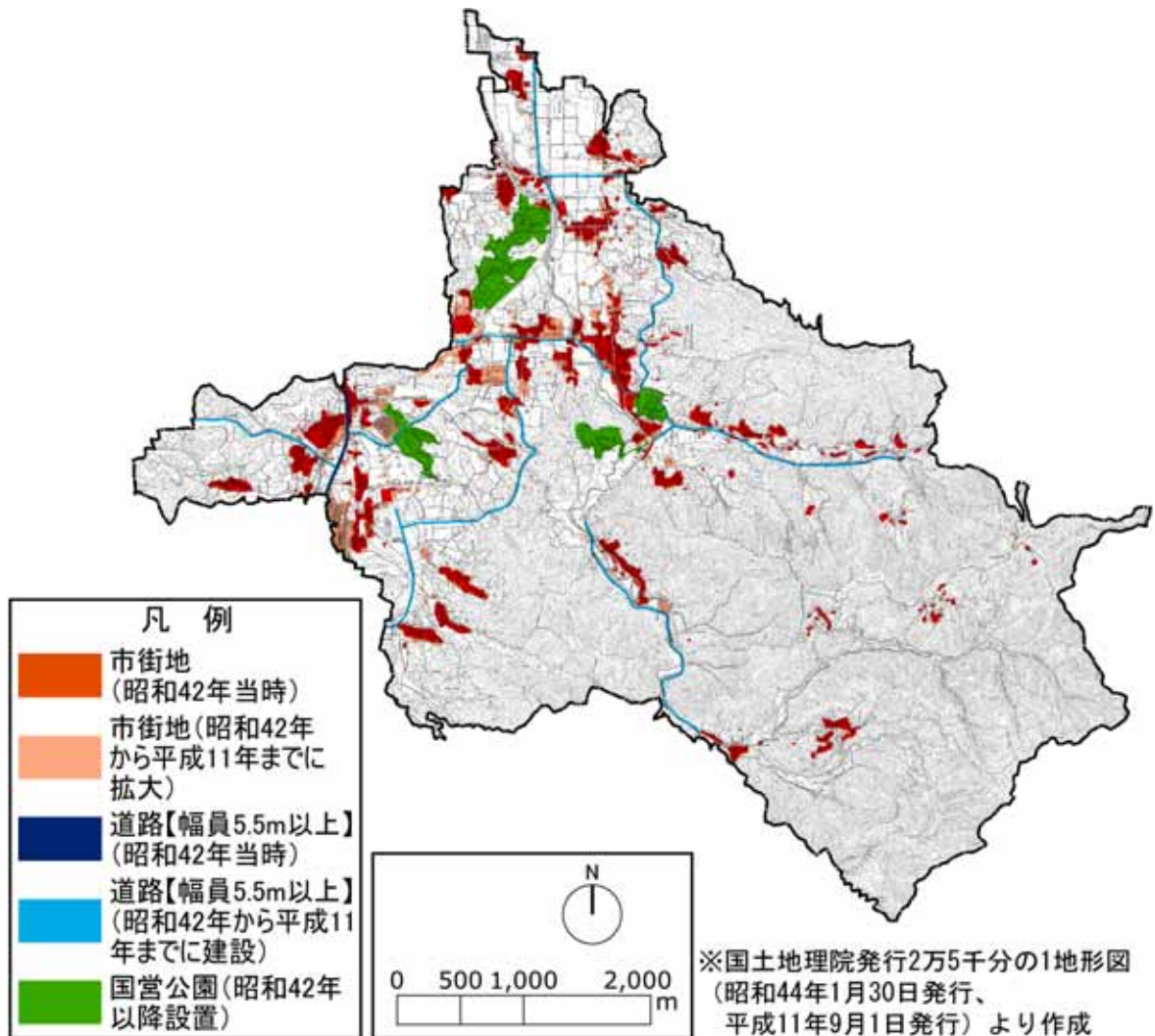


図 1 市街地拡大傾向

2. 古都保存法に基づく行為許可状況

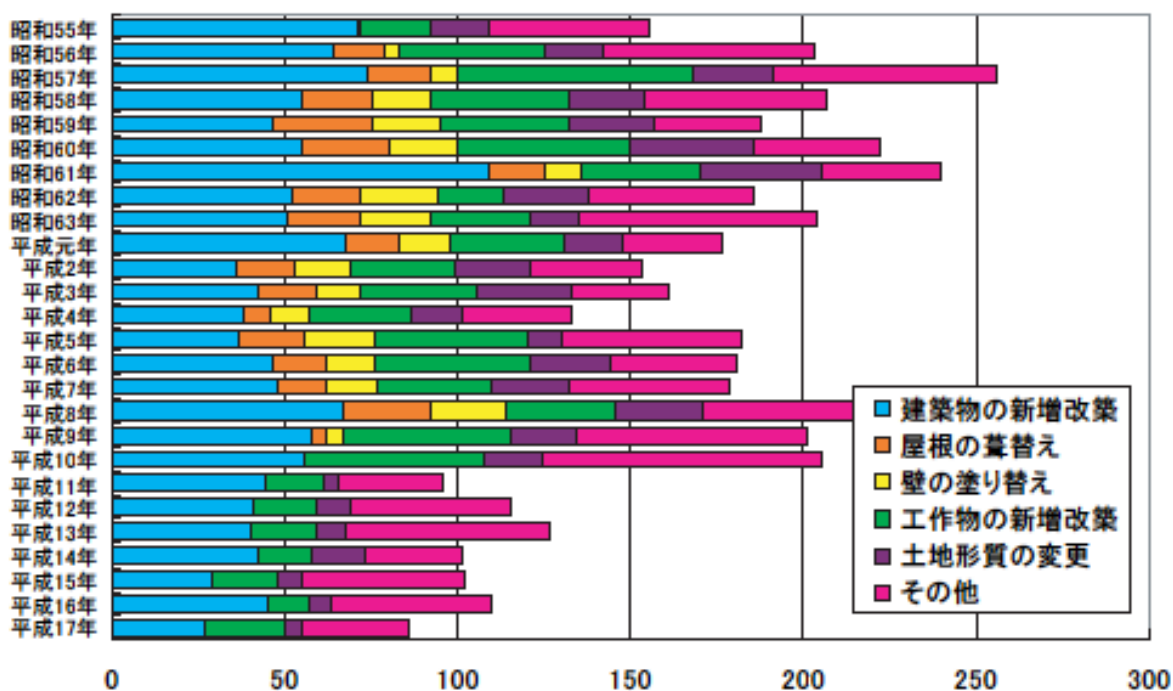
表1 古都保存法に基づく行為許可状況

		～S55	S55～59	S60～H1	H2～6	H7～11	H12～16	H17～18
第1種保存地区	行為申請件数	159	62	62	68	55	34	14
	許可件数	104	42	44	43	39	20	5
	不許可件数	39	20	18	25	13	8	6
	買入申出件数	64	23	16	36	14	12	5
第2種保存地区	行為申請件数		773	830	623	813	466	174
	許可件数		729	804	611	738	414	145
	不許可件数		44	26	21	55	50	22
	買入申出件数		40	19	29	68	62	23

※S55以前は、従来の特別保存地区における行為許可件数

3. 土地利用の変遷

- ・ 明日香村における風致地区内における行為許可申請件数は、昭和57年をピークとして減少し、再び平成8年に増加したが、近年は100件程度で推移している。
- ・ 平成17年の申請件数をみると、建築物の新築改築よりも、その他の割合が高い。



資料：平成17年明日香村『村勢要覧【資料編】「明日香村のすがた」』

図2 風致地区内行為許可申請件数

4. 古都買入地の状況

- ・ 古都法に基づく買入地は平成 19 年度末現在で約 50.7ha となっており、近年は特に第 2 種歴史的風土保存地区での増加が著しい。
- ・ 買入地の管理状況を見ると、除草等の簡易な管理が行われる景観管理や現状維持が半分を占めている。また、1 m²あたりの維持管理費は平成 13 年度以降毎年減少しており、平成 19 年度には平成 13 年度の半分の金額となっている。
- ・ 買入地は広範囲に点在しており、1 箇所あたりの平均面積は 807 m²となっている。

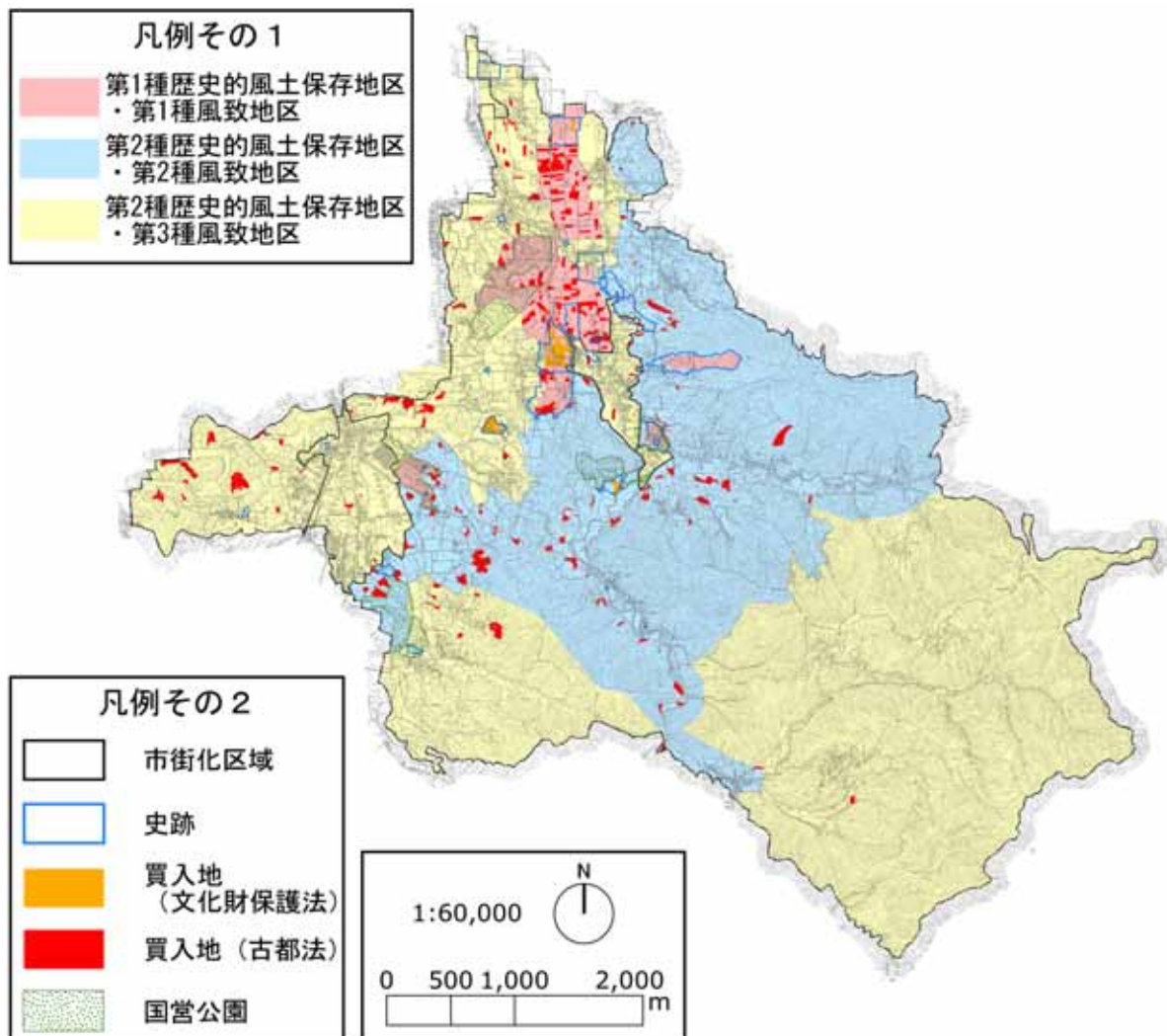


図 1 買入地の分布状況

表 1 買入地の管理形態

管理状況	景観管理	花園づくり	景観形成	行政財産使用	現状管理
面積 (m ²)	163,354	4,794	13,185	205,130	108,193

景観管理：「除草」等による管理

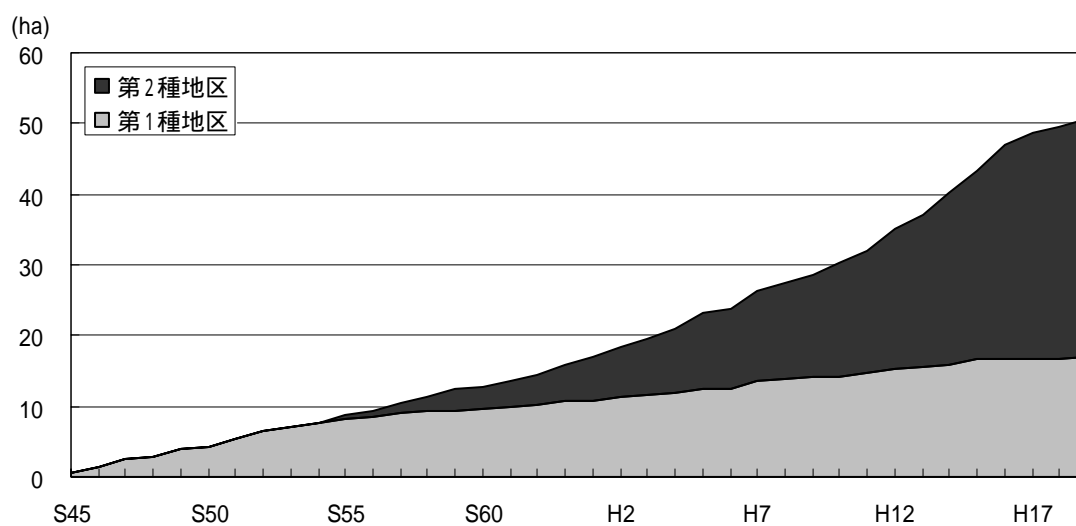
花園づくり：「コスモス・ハナナの花づくり」による管理

景観形成：「ボランティア団体等による景観づくり」による管理

行政財産使用：「県から村などに貸出＜実際は村が一括で借り、地元の方に稲作を行ってもらっている＞」による管理

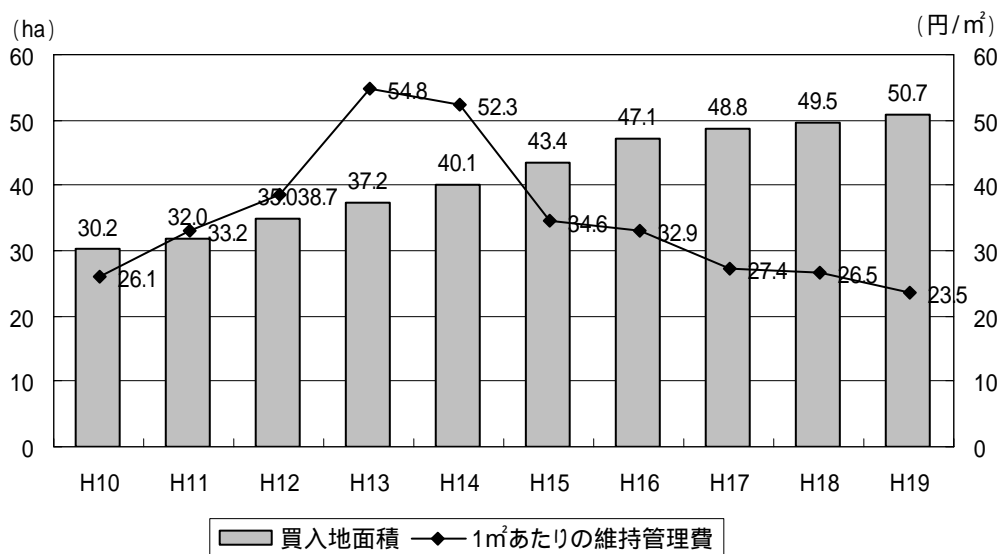
現状管理：特に管理は実施していない

資料：奈良県風致保全課（平成 19 年 4 月 1 日現在）



資料：明日香村政策調整課

図 2 買入地の面積推移



資料：明日香村政策調整課

図 3 買入地の維持管理費の推移

表 2 1箇所あたりの平均面積

	第1種地区	第2種地区	合計
面積	16.9 ha	33.8 ha	50.7 ha
箇所数	253 箇所	376 箇所	629 箇所
1箇所あたりの平均面積	669 m ²	899 m ²	807 m ²

資料：明日香村政策調整課

5. 景観の現況

住宅デザインの多様化



街並み景観



電線・電柱



サイン、自販機



公共施設整備の不統一



耕作放棄地



森林荒廃



法制定以前から立地している建築物等



財政状況

1. 村の決算規模

- ・ 歳入、歳出とも減少傾向にあり、普通建設費の歳出額も減少傾向にある。

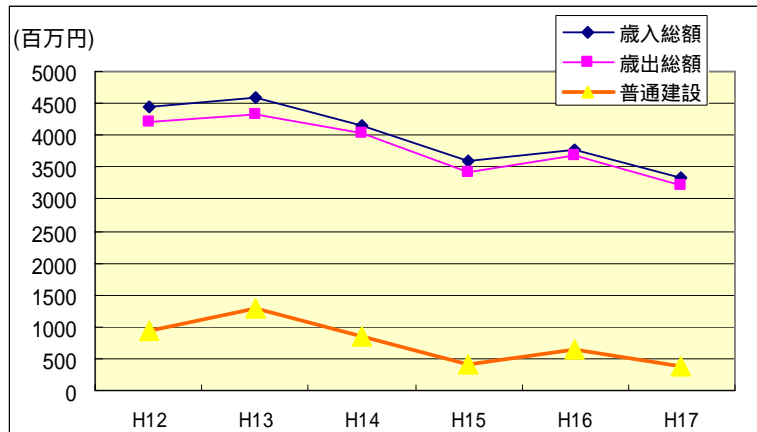


図1 村の決算規模

財政力指数	3ヶ年平均 (H16~18)
明日香村	0.27
高取町	0.38
大淀町	0.50
奈良県平均	0.44
全国平均	0.53

図2 財政力指数の比較

財政力指数 = 基準財政収入額 ÷ 基準財政需要額

(奈良県資料 (奈良県市町村要覧))

2. 村税、地方交付税の状況

- ・ 村税は歳入総額の約10%と低い状況。
- ・ 村税が低く、地方交付税への依存率が高いため、財政力指数は小さい。

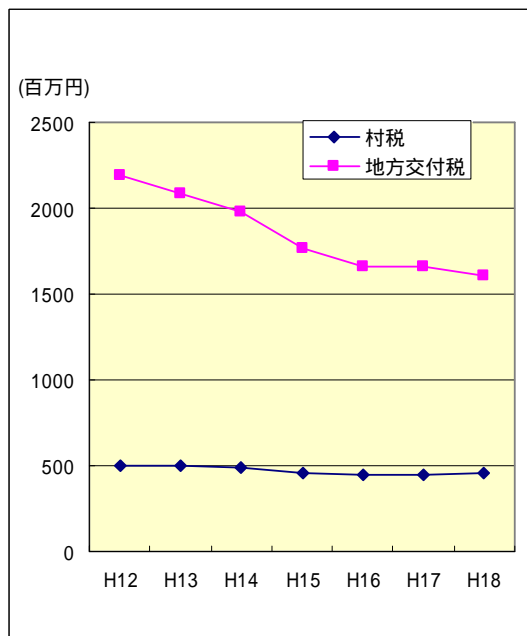


図3 村税と地方交付税の推移

歳入に占める市町村税比率	H18年度(%)
明日香村	10.2
高取町	20.3
大淀町	23.3
奈良県平均	35.4
全国平均	36.5

図4 歳入に占める市町村税比率の比較

歳入に占める地方交付税比率	H18年度(%)
明日香村	36.2
高取町	36.5
大淀町	26.6
奈良県平均	22.6
全国平均	14.9

図5 歳入に占める地方交付税比率の比較

(奈良県資料 (奈良県市町村要覧))

3. 経常収支比率

- ・ 経常収支比率が100%を超えており、財政が硬直化。

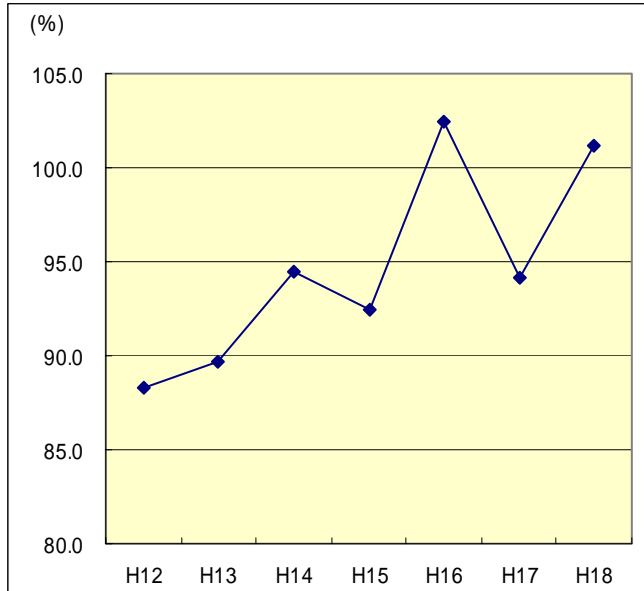


図6 経常収支比率の推移

経常収支比率	H18年度(%)
明日香村	101.2
高取町	103.5
吉野町	96.4
奈良県平均	97.9
全国平均	90.3

図7 経常収支比率の比較

（経常収支比率とは、税などの一般財源を、人件費や扶助費、公債費など経常的に支出する経費にどれくらい充当しているかをみることで、財政の健全性を判断するもの。）

（奈良県資料（奈良県市町村要覧））